

VI-4

高知工科大学における社会人基礎力育成について

高知工科大学教育講師 フェロー会員伊藤綱男

1. はじめに

高知工科大学では、①学生の能力向上、資質向上支援 ②個々の学生への丁寧な就職支援 ③学生の就職満足度向上を目指してキャリア教育を実施している。1年生では、導入教育としてスタディスキルズを実施しており、基礎学力、問題解決力及び社会対応力などの育成、2年生では自己発見プログラム、3年生では企業でのインターンシップ、企業見学及びキャリアプランの授業を実施し、円滑な就職活動のための支援を行っている。本稿では、社会システム工学科3年生を対象としたキャリアプラン授業で実施した「社会人基礎力」育成に関して報告する。

2. キャリアプラン授業概要

社会システム工学科3年生77名(08年度)対象に、1年間で37回(正課ではない)実施している。内容としては、SPI模擬試験、企業の方からの講演、先輩卒業生からの講演、職業適性テスト、会社研究、自己分析、進路先意向調査、模擬面接、エントリーシートの書き方などである。これらの授業や演習、レポート提出、3回にわたる面談を通じて、キャリア教育が実施される。また3年後期からは研究室配属され担当教員によりさらに指導が徹底される。このほかに全学的な授業(正課)が実施される。これらの支援体制として、就職支援部、就職担当教員、教育講師、研究室教員、学年担当教員がそれぞれ対応している。

3. 社会人基礎力とは

経済産業省において社会人基礎力育成教育プログラムが提唱されている。近年、若手育成において、基礎学力の不足に加えて、コミュニケーション能力、積極性、問題解決力等社会人として必要な能力(社会人基礎力)が低下しているとの指摘があり、産業人材育成の立場からプログラムが提案された。

表一1 社会人基礎力(3つの能力と12の要素)の構成

能力	内容	要素
前に踏み出す力(アクション)	一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力	主体性、働きかけ力、実行力
考え抜く力(シンキング)	疑問をもち、考え抜く力	課題発見力、計画力、想像力
チームで働く力(チームワーク)	多様な人々とともに、目標に向けて協力する力	発想力、傾聴力、状況把握力、規律性、ストレス・コントロール力

4. 社会人基礎力の自己評価

キャリアプラン授業を通じて、社会人基礎力が向上したかどうかについて、アンケート調査を実施した。インターンシップの前の7月と就職活動が本格化してくる時期の12月の前後2回(同じ質問)とした。各要素について、具体項目に対して自己評価記入とし、それぞれ各項目について4ランクの評点を与えた。質問項目は全部で50問(12要素ごとに4問及びコミュニケーション能力の2問を加えている)。質問内容は、本学独自の作成である。たとえば、表一1では、「主体性」を4つの項目で説明している。

表一1 要素「主体性」の具体項目の例とクラス全体の評価別回答数(回答数:62名)

「主体性」の具体項目	D	C	B	A
自分のことは他人を煩わせることなく自分の力のできる。	0	11	41	10
様々なことに関心を持ち、自分の守備範囲を広げたいと考える	1	14	31	16
向上心が旺盛で、現状に満足せず将来ビジョンを描いている	0	23	30	9
主義主張が一貫し、安易な誘惑には負けずに遂行できる	2	25	27	8

評価Aは「できる」4点、Bが「だいたいできる」3点、Cは「あまりできない」2点、Dは「できない1点」とする。

5. 結果の考察

表一2にクラス平均の要素別実施時期別の評点調査結果を示す。併せて実施時期別の評点の差額を示す。この結果は、個人別にグラフ化して渡し、クラス平均との差から自分の強み、弱みを自覚させ就活戦略のヒントとして活用している。

- ① 全要素の平均値では、2.96から3.08と僅か向上しており、全体としてある程度の効果があったといえる。
- ② 12月時点で評点が高い順に、傾聴力、働きかけ力、状況把握力となっている。低いものは、計画力、課題発見力、ストレス・コントロール力となっている。
- ③ 最も伸長度が大きい要素は、働きかけ力であり、0.55と高い。次いで傾聴力、主体性、実行力、発信力となっている。逆に、計画力がマイナス0.35となった。計画力、課題発見力や創造力が弱い。

以上から、インターンシップやキャリアプランの講義をキッカケとして、ほかの人の話を良く聞き主体的に行動する姿勢が少しずつ出来てきたと理解することが出来る。アクションやチームワークについては向上したが、シンキングの要素がまだ不十分な状況となっている。

表一2 要素別前期と後期の評点とその差額（評点はクラス平均）

要素	12月	7月	差	要素	12月	7月	差
主体性	3.08	2.88	0.20	発信力	2.94	2.74	0.20
働きかけ力	3.26	2.71	0.55	傾聴力	3.36	3.13	0.23
実行力	3.11	2.91	0.20	柔軟性	3.08	2.89	0.19
課題発見力	2.97	2.99	-0.02	状況把握力	3.24	3.07	0.17
計画力	2.81	3.16	-0.35	規律性	3.11	3.06	0.05
創造力	3.02	3.06	-0.04	ストレス・コ	2.91	2.80	0.11
コミュニケ	3.20	3.05	0.15	合計平均	3.08	2.96	0.12

6. 今後の課題

近年大学におけるキャリア教育への関心は高いものがある。中央教育審議会の答申「大学学士改革」では、学士課程においては、「何が出来るようにするか」に力点を置いた学生本位、学習成果重視の教育改革が求められている。「知識理解」「汎用的技能」、「態度・志向性」、「統合的な学習経験と創造的志向力」の4本柱で構成される。また「コミュニケーション力」や、自らを律して行動できる「自己管理力」、卒業後も自律・自立して学習できる「生涯学習力」などが主な内容となっている。また、土木学会では、社会人を含めた工学教育のあり方が議論となっている。基本となる考えは、エンジニアリング・デザイン(以下ED)教育である。ED教育の目的は、問題発見・解決能力の高い技術者を育成することである。いずれも、専門分野のほかに人間力や問題解決力など、社会人基礎力に通じる共通事項が多い。

一方産業界の採用担当からは、従来から「社会人としての基本的マナー」、「人柄・性格」への重視は強く、「積極性」、「打たれ強いタフな人材」など、より人間的な強さを有する人材への要求がある。

08年後半からの金融危機以来、企業の採用条件は厳しくなっている。しかし、今後とも優秀な人材の確保は企業経営に必要となるであろうことから、いかに優秀な人材を送り出すかがさらに問われることになる。学生の質の向上がキャリア教育における課題であることには変わりはない。これまで売り手市場に甘んじてきた風潮が無いとはいえず、学生の就職活動にも多々見られる。本学における就職支援及びキャリア教育の実施において、多様な学生の状況を踏まえつつ、また社会経済情勢や企業からの要請に応えた態勢作りを考えていくことが必要と考えられる。「就職支援もキャリア支援も」、「会社研究も生き方支援も」の姿勢で臨むこととなる。